「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港」

1. 大島干潟の概要
2. 大島干潟での取組内容
3. Jブルークレジット®制度の活用
4. 令和5年度実施事業について
5. 大島干潟での生物多様性
6. 今後の予定　～市内他地域へのブルーカーボン生態系の拡大～
7. 最後に

山口県漁業協同組合周南統括支店
大島干潟を育てる会　周南市

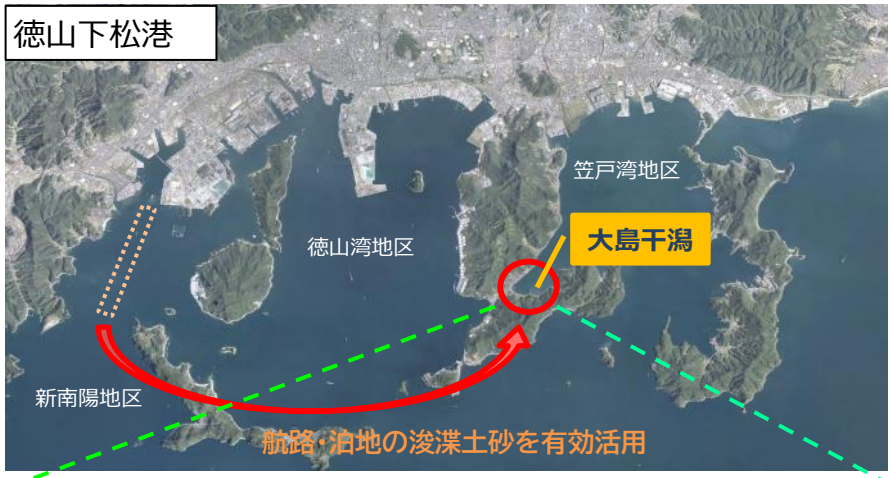
大島干潟の概要

大島干潟の概要

- 徳山下松港における航路泊地などの**港湾整備の促進**と、**瀬戸内海で喪失した浅場の再生**に資すること等を目的に、新南陽地区の航路泊地整備に伴い発生する浚渫土砂を活用し造成した、**アサリの自律的再生を主目標とする日本初**の**約29haの人工干潟**である。
- **平成15年度から29年度まで**に国土交通省において造成工事を行い、その後、**周南市が移管を受け、管理**を行っている。

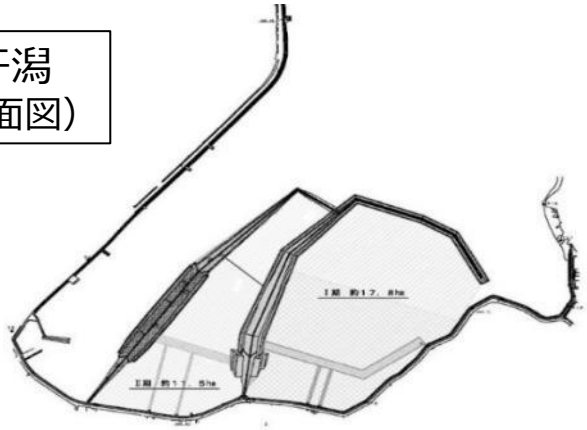
周南市の概要

徳山下松港



大島干潟（現況写真）

大島干潟
（計画平面図）



大島干潟での取組内容

大島干潟を育てる会による保全活動（平成29年11月に発足）

- **月1～2回実施**し、被覆網のメンテナンス、**アサリ**の間引き作業、**カキ**の養殖試験など

被覆網の砂の除去

アサリの間引き作業

アサリ増殖の勉強会

アサリの畜養試験

カキのシングルシード養殖試験

環境学習の実施

- 毎年市内小学生を対象に「海辺の自然学校in周南」を開催され、藻場・干潟に生息する多様な水生動植物を観察することで、大島干潟での自然の豊かさを知ってもらう海洋環境学習を実施されている

集合写真

座学(干潟について)
アサリの間引き
水生動植物の観察
人文字ドローン撮影

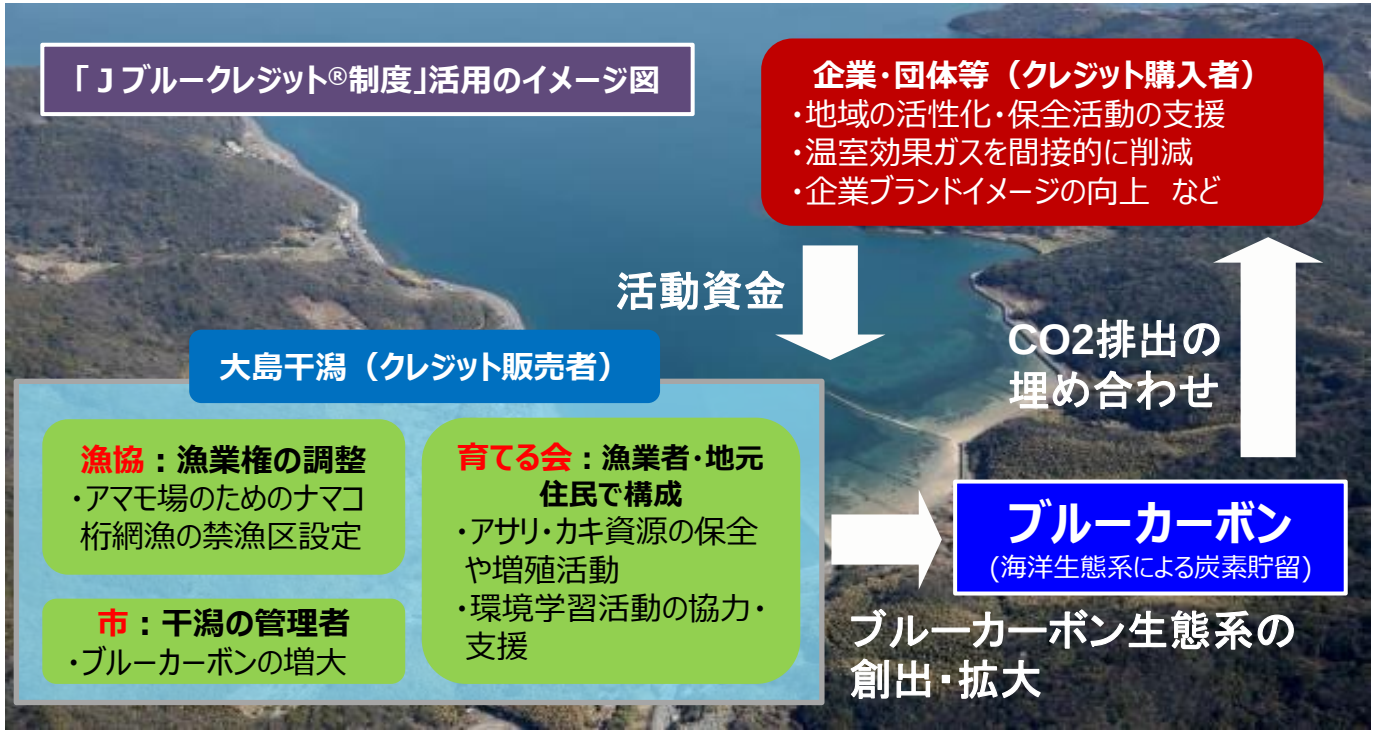
Jブルークレジット®制度の活用

大島干潟を育てる会の現状と課題解決について

- 会員の高齢化（60～70歳代）と会員数の伸び悩み（現在15名）
- 活動資金の財源であるアサリ売払収入金が殆どないため、被覆網の更新、アサリ稚貝の購入が出来ない

⇒ 活動の活性化・継続性のために『Jブルークレジット®』制度を活用

- 認証理由：アサリやカキの水質浄化作用により、水域の透明度が良くなり、アマモやコアマモなどのブルーカーボン生態系が創出・拡大することでCO2吸収量が増大したこと



主な取組内容	●アサリ・カキの増養殖による保全活動 ●環境教育・普及啓発（観察会等の開催）
CO_2吸収量 [t-CO_2]（認証・発行クレジット量）	R3年度：44.3 R4年度：32.4 R5年度：29.3
クレジット購入企業・団体数	R3年度：14社 R4年度：17社 R5年度：**社

令和5年度実施事業について

1. 大島干潟キッズDAY（全3回）の開催

※主催：ﾄﾞﾘｰﾑｽｸｰﾙ実行委員会、共催：育てる会、協力：漁協、市

- 小学生親子を対象に、年3回（7月、11月、３月）開催し、それぞれの季節（夏、秋、春）の干潟での生き物観察を実施する
- ブルーカーボン、生物多様性、地球温暖化防止、SDGsなどについて学習する

2. R4年度Jブルークレジット®購入者との交流（報告会、見学会）

- **報告会**：購入者をお招きし、販売者から感謝の意を伝え、購入者から購入したクレジットの使い道などをスピーチしてもらう
- **見学会**：「海辺の自然学校」の様子と併せて、育てる会の保全活動（カキ、アサリの養殖）やアマモ、コアマモの生育状況を見学する

報告会

見学会

3. アマモ場を活用する栽培漁業（種苗放流）の実施

- マコガレイ 41,000匹、クルマエビ 27,000尾 を放流
  ⇒ 順調に育てば、令和７年から 漁獲可能となる

マコガレイ

クルマエビ

大島干潟での生物多様性

干潟や藻場に生息する生物が増加

貝　類

アカニシ

アカニシの卵塊

タイラギの仲間

ハマグリ

トリガイ

マガキ

アサリ

アサリ

ウミニナの仲間

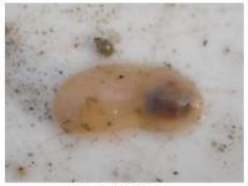
ツメタガイ

ツメタガイの卵塊

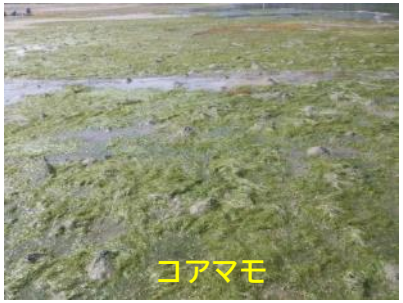
アラムシロ

イガイの仲間

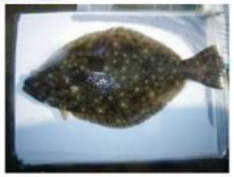
ホトトギス


キセワタ

ドローンによる撮影（2023年5月17日、第Ⅱ工区）



魚　類


ヒラメ

カレイ

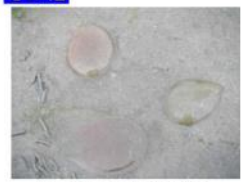
クロダイ

アミメハギ

アカエイ

コンゴウフグ

その他


タマシキゴカイの卵塊

タマシキゴカイの糞塊

海綿動物のなかま

甲殻類

クルマエビ

タイワンガザミ

コメツキガニ

テッポウエビ

イシガニ

シオマネキ類

大島干潟での生物多様性（その２）

大島干潟　刺網調査の速報

項目		内容
調査年月日		令和５年８月 31 日夕方～令和５年９月１日朝方
調査方法		刺し網（第Ⅰ工区内側） カニ網（第Ⅱ工区外側）
調査結果 ※(　)は個体数	魚類	アカエイ(4)、コノシロ(4)、ウミタナゴ(9)、マゴチ(1)、ワニゴチ(1)、ハモ(1)、タケノコメバル(2)、ヒガンフグ(2)、オニオコゼ(2)、カワハギ科(1)
	甲殻類	タイワンガザミ（9）、イシガニ(6)

タイワンガザミ、イシガニ

コノシロ

アカエイ

ウミタナゴ

タケノコメバル

オニオコゼ

大島干潟　刺網調査の速報（冬季調査）

項　目		内　容
調査年月日		令和６年２月 22 日夕方～令和６年２月 23 日朝方
調査方法		刺網（第Ⅰ工区内） 刺網（第Ⅱ工区内）
調査結果 ※（　　）は個体数	魚類	カサゴ(14)、ウミタナゴ(11)、タケノコメバル(11)、ヒガンフグ(9)、メバル属(5)、ボラ(1)、クロダイ(1)、オニオコゼ(1)、コノシロ(2)、アカエイ(1)
	その他	アカニシ(2)、イトマキヒトデ(1)

カサゴ

ウミタナゴ

タケノコメバル

ヒガンフグ

メバル属

アカニシ

⇒　人工干潟造成後、ブルーカーボン生態系の拡大により、魚介類の育成場となり、水産振興の兆しが見えてきた！

今後の予定　～市内他地域へのブルーカーボン生態系の拡大～

プロジェクト名の『大島干潟から、つながる・・・』を実現するために…

⇒ 徳山下松港内の他地域のブルーカーボン創出を実施!!

市内他地域での藻場づくりとしての候補地調査・選定
他地域で活用できる「ブルーカーボン生態系保全マニュアル」の作成

⇒　候補地選定

①笠戸湾地区：大島干潟周辺（沖山地区など）【アマモなど】
②徳山湾地区：コンビナート企業の民有護岸【ワカメやガラモなど】
③新南陽地区：戸田地区（西津木干潟）、Ｎ７干潟など【アマモなど】